vinetur

Shandong Taishan Beer、Pinlive Foodsを含む企業連合を裁判所主導の再建で選定

開示資料によると、負債が資産を約4,120万元上回っており、再建には債権者と裁判所の承認がなお必要だ

2026年11月10日（火）



Shandong Taishan Beerは、Pinlive Foods Co., Ltd.を含む企業連合が投資候補者に選ばれ、裁判所主導の再建に向けて一歩前進した。11月9日月曜日に公表された会社の開示資料で明らかになった。

開示資料によると、今回の選定は同社の再建が進展したことを示すものの、取引が成立したわけではない。提案された投資は、債権者との合意に盛り込まれたうえで、裁判所の承認を得る必要がある。購入価格や最終的な投資額、再建が完了した場合に企業連合が取得する持ち分については、開示されていない。

今回の案件の焦点は、再建前に公表された最新の監査済み貸借対照表で、資産を上回る負債を抱えていたビールメーカーだ。開示資料に記載された数値によると、Shandong Taishan Beerの2025

年10月31日時点の資産は6億2,169万元、負債は6億6,289万元だった。負債は資産を41,198,967.27元上回っており、再建手続きが進む前の時点で純資産がマイナスだったことを示している。

これらの貸借対照表の数値は過去のものであり、11月時点の同社の財務状況を示すものとして捉えるべきではない。開示資料にShandong Taishan Beerのより新しい貸借対照表はなく、時系列で同じ条件の比較ができる、過去の監査済み貸借対照表も示されていない。

Shandong Taishan Beerは中国・山東省の泰安市に拠点を置く。同社は賞味期間が短い無ろ過ビールの製造で知られており、このカテゴリーの商品は通常、迅速な流通と地域市場への販路に依存する。そのため、戦略投資家が関与する場合、今回の再建は同社の資本構成だけでなく、販売網へのアクセスにも大きな影響を及ぼす可能性がある。

選定された企業連合の一員であるPinlive Foodsは、食品の輸入・流通を手がけ、ビール関連の取引も行っている。同社は第3四半期報告書で、2026年1月から9月までの売上高が6億2,020万元だったと公表した。この数値は、公開資料で同社の事業規模を示すものとして提示されており、ビールの売上高だけを表すものではない。

Taishan Beerの再建は財務基盤が弱い状況で進められており、投資家の役割は重要だ。負債が資産を上回る同社には、債権者の請求権と将来の事業運営の双方に対応する解決策が必要となる。再建に参加する投資家は、資本や事業面の支援、あるいはその両方を提供できるが、開示資料は条件がまだ固まっていないことを明らかにした。

発表では、入札者の数や企業連合の選定方法、取引完了に向けて裁判所または管財人が追加条件を設けたかどうかは明らかにされなかった。また、現経営陣が続投するのか、生産を拡大または縮小するのか、既存債権者に債権放棄や返済期限の延長、債務の株式化が求められるのかについても言及はなかった。

現時点で最も具体的な情報は、再建前の同社の貸借対照表の規模と、選定された投資家グループの一員の名称だ。食品やビールの商業流通を手がける企業を含む企業連合が選ばれたことから、今回の再建は資産の売却だけでなく、事業の継続を目指す可能性がうかがえる。ただし、開示資料は企業連合の事業計画には踏み込んでいない。

今回の動きは、財務難に陥った中国の地場メーカーが、外部資本の導入を図りながら裁判所の監督下での再建を目指す、より広範な流れの一環だ。Taishan Beerの場合、負債と資産の不均衡が課題の大きさを浮き彫りにしている。同社の負債は6億6,289万元、資産は6億2,169万元で、差額が生じており、より安定した条件で再建を終えるには、再建計画でこの差に対処する必要がある。

債権者の同意と裁判所の最終承認を得るまでは、今回の選定は暫定的なものにとどまる。開示資料は手続き上の重要な進展を示しているが、投資の最終的な枠組みや評価額、スケジュールはまだ確定していない。